

### 問題 1

\* ( ) 内は、用語の説明であるため記述していなくてもよい。

- ①評価的応答：(相手の発言に、良い・悪いの評価で返す応答)
- メリット 自信や勇気をもたせることが可能である。
- 危険性 ネガティブな評価を返した場合、叱られている・否定されていると感じさせやすい。また、ポジティブに評価しても、きちんと話を聞いてから判断してほしいという反発心を招きやすい。
- ②調査的応答：(相手の発言に、質問を投げかける応答)
- メリット 自分の話に興味・関心を示してくれたと受け取められる可能性がある。
- 危険性 いきなり土足で人の気持ちに入ってくれないでほしいという気持ちを抱かれやすい。また、事実を問う質問で返され続けると、相手は心理的に追い込まれてしまいやすい。
- ③解釈的応答：(相手の発言の原因を類推して返す応答)
- メリット 推測が当たると、自分を理解してくれる人だという印象を抱いてもらいやすい。
- 危険性 推測が外れた場合、価値観が異なる人だと判断されやすい。また、推測が当たるということは、問題の核心をついてしまうことを意味するため、相手を傷つけてしまう可能性が高い。
- ④支持的応答：(相手の発言に当たり障りなく返す応答)
- メリット 味方を得たと認識してもらえる可能性がある。
- 危険性 口先だけで、真剣に聞いてくれていないという印象を抱かせてしまう可能性が高い。
- ⑤理解的応答：(受容・共感の態度を示す応答)
- メリット 受け入れられている感覚、理解しようされているという感覚を喚起させ、次の発言についての誘発効果がある。
- 危険性 いつまでも話が行ききし、結論に至らない危険性がある。また、受け入れられている心地よさを与えるため、相手がそれ以上動かなくなってしまう危険がある。

### 問題 2

生徒指導の機能について、2つの側面があることを指摘できていれば結構です。

例えば、「**予防・開発的**生徒指導」と「**問題対応的**生徒指導」／「**育ちを支援**する生徒指導」と「**秩序や規律を指導**する生徒指導」／「**集団全体に働きかける**生徒指導」と「**個別**に対応する生徒指導」など。いずれもどちらかだけが重要なのではなく、どちらも重要であること、1か0ではなく相互に関連し、循環的な関係にあることが指摘できていればより望ましいです。

### 問題 3

・ S男君個人への対応+その間授業をどうするか、他の児童をどうするか、が含まれていること。S男君の状況がいつもと違うことに着目できていること。

・ 今後について、「ふざけている児童」への指導のしかたではなく、S男君への指導について注意すべき点を書いていること。(ex.保護者との連絡、他の教員への報告や相談、本人や友達からの情報収集、特別視しすぎない、他の児童への配慮、S男君との信頼関係構築、など)

※事例の出典元『教師のためのカウンセリングワークブック』の解説も参照して下さい。